|  |
| --- |
| **２５２６．搭載便割当情報訂正** |

|  |  |
| --- | --- |
| 業務コード | 業務名 |
| ＦＬＦ | 搭載便割当情報訂正呼出し |
| ＦＬＦ０１ | 搭載便割当情報訂正 |

１．業務概要

入力された便名単位またはＡＷＢ単位に、当該便に搭載便割当てされている輸出貨物情報並びにＵＬＤ情報を呼び出し、搭載便情報の変更または取消しを行う。

（１）「搭載便割当情報訂正呼出し（ＦＬＦ）」業務の場合

処理種別が変更、または取消しの場合は、入力された便名またはＡＷＢ番号から、当該便に搭載便割当てされている輸出貨物情報及びＵＬＤ情報を呼び出す。

処理種別が強制取消し＊１の場合は、入力された便名またはＡＷＢ番号から、当該便に搭載便割当てされている輸出貨物情報を呼び出す。

処理種別が貨物識別の変更登録の場合は、入力された便名からＡＷＢ情報を呼び出す。

（＊１）強制取消しとは、便情報無し、または搭載終了済の便情報に対する便割当ての取消しをいう。

（２）「搭載便割当情報訂正（ＦＬＦ０１）」業務の場合

処理種別が変更、または取消しの場合は、呼び出された輸出貨物情報及びＵＬＤ情報単位に搭載便情報の変更または取消しを行う。

処理種別が強制取消しの場合は、呼び出された輸出貨物情報単位に搭載便情報の取消しを行う。

処理種別が貨物識別の変更登録の場合は、呼び出された輸出貨物情報単位に、貨物識別の変更登録を行う。

２．入力者

航空会社

３．制限事項

①１業務で処理可能なＡＷＢ件数及びＵＬＤ件数は最大２０件とする。

②１搭載便に割当て可能なＡＷＢ件数は最大５００件とする。

③１搭載便に割当て可能なＵＬＤ件数は最大９９件とする。

④１搭載便に対して、１ＡＷＢで登録可能な取卸地は最大２件とする。

⑤１ＡＷＢに対して、割当て可能な便名（同一便名で複数の取卸地が登録されている場合は、複数便として扱う。）は最大３０便とする。

なお、処理種別が変更の場合は、変更後の割当て便名を含めて最大３０便とする。

４．入力条件

（１）入力者チェック

①システムに登録されている利用者であること。

②入力された割当て便名の示す航空会社と同一であること。

また、入力者が受託者の場合は、受委託関係がシステムに登録されていること。

③入力者に対して積込港が登録されていること。

（２）入力項目チェック

（Ａ）単項目チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（Ｂ）項目間関連チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（３）フライトＤＢチェック

変更の場合は、変更後の割当て便名及び取卸地に対して以下のチェックを行う。

①変更後の割当て便名に対する日別または基本フライト情報が存在すること。

②入力された取卸地が登録されていること。

③欠航便の旨が登録されていないこと。

（４）輸出便情報ＤＢチェック

（Ａ）変更の場合

（ａ）変更前輸出便情報

入力された変更前の割当て便名に対して以下のチェックを行う。

①入力された変更前の割当て便名に係る輸出便情報ＤＢが存在すること。

②入力された取卸地が登録されていること。

③搭載終了の旨が登録されていないこと。

（ｂ）変更後輸出便情報

入力された変更後の割当て便名に係る輸出便情報ＤＢが存在する場合は、以下のチェックを行う。

①入力された取卸地が登録されていること。

②搭載終了の旨が登録されていないこと。

（Ｂ）取消しの場合

入力された取消し便名に対して以下のチェックを行う。

①入力された取消し便名に係る輸出便情報ＤＢが存在すること。

②入力された取卸地が登録されていること。

③搭載終了の旨が登録されていないこと。

④入力されたＵＬＤ番号が登録されていること。

（Ｃ）強制取消しの場合

入力された取消し便名に係る輸出便情報ＤＢが存在する場合は、以下のチェックを行う。

①入力取卸地と同一の取卸地が登録されていること。

②搭載終了の旨が登録されていること。

（Ｄ）貨物識別の変更登録の場合

入力された変更前の割当て便名に対して以下のチェックを行う。

①入力された変更前の割当て便名に係る輸出便情報ＤＢが存在すること。

②入力された取卸地が登録されていること。

③搭載終了の旨が登録されていないこと。

（５）ＵＬＤ情報ＤＢチェック

変更、取消し、または強制取消しの場合は、入力されたＵＬＤ番号に対して以下のチェックを行う。

①入力されたＵＬＤ番号に係るＵＬＤ情報ＤＢが存在すること。

②入力された変更前の割当て便名または取消し便名、及び取卸地が登録されていること。

③搭載完了登録されていないこと。

（６）輸出貨物情報ＤＢチェック

（Ａ）変更の場合

（ａ）ＡＷＢ番号が入力された場合

①入力されたＡＷＢ番号に係る輸出貨物情報ＤＢが存在すること。

②ＡＷＢまたはＭＡＷＢであること。

③手作業移行済でないこと。

④入力された変更後の割当て便名に対して搭載完了登録済でないこと。

⑤入力された変更前の割当て便名及び取卸地と同一の便名及び取卸地で搭載便が割り当てられていること。

⑥便割当て済バラ個数＊2が存在すること。

（＊２）便割当て済バラ個数とは、特定の便名及び取卸地に割り当てられている貨物のうち  
「積付結果登録（ＭＡＷＢ単位）（ＵＬＭ）」業務等が行われていない個数をいう。

便割当て済バラ個数＝便割当て個数－搭載済個数－未搭載ＵＬＤ積付個数

⑦スプリット個数が入力された場合は、その個数は便割当て済バラ個数より小さいこと。

⑧スプリット重量が入力された場合は、その重量は便割当て済バラ重量＊3より小さいこと。

（＊３）便割当て済バラ重量とは、特定の便名及び取卸地に割り当てられている貨物のうち  
ＵＬＭ業務等が行われていない重量をいう。

便割当て済バラ重量＝便割当て重量－搭載済重量－未搭載ＵＬＤ積付重量

⑨入力された変更後の割当て便名及び取卸地に対応するフライトスケジュール情報に搭載不可（社用品のみ可）の旨が登録されている場合は、その貨物は社用品であること。

（ｂ）ＵＬＤ番号が入力された場合

当該ＵＬＤに積み付けられているＡＷＢに対して以下のチェックを行う。

①入力されたＡＷＢ番号に係る貨物情報ＤＢが存在すること。

②ＡＷＢまたはＭＡＷＢであること。

③手作業移行済でないこと。

④入力された変更前の割当て便名及び取卸地と同一の便名及び取卸地で搭載便が割り当てられていること。

⑤搭載完了登録されていないこと。

⑥入力された変更後の割当て便名及び取卸地に対応するフライトスケジュール情報に搭載不可（社用品のみ可）の旨が登録されている場合は、その貨物は社用品であること。

（Ｂ）取消しの場合

（ａ）ＡＷＢ番号が入力された場合

①入力されたＡＷＢ番号に係る輸出貨物情報ＤＢが存在すること。

②ＡＷＢまたはＭＡＷＢであること。

③手作業移行済でないこと。

④入力された取消し便名に対して搭載完了登録されていないこと。

⑤入力された取消し便名及び取卸地と同一の便名及び取卸地で搭載便が割り当てられていること。

⑥便割当て済バラ個数が存在すること。

⑦スプリット個数が入力された場合は、その個数は便割当て済バラ個数より小さいこと。

⑧スプリット重量が入力された場合は、その重量は便割当て済バラ重量より小さいこと。

（ｂ）ＵＬＤ番号が入力された場合

当該ＵＬＤに積み付けられているＡＷＢに対して以下のチェックを行う。

①入力されたＡＷＢ番号に係る輸出貨物情報ＤＢが存在すること。

②ＡＷＢまたはＭＡＷＢであること。

③手作業移行済でないこと。

④入力された取消し便名及び取卸地と同一の便名及び取卸地で搭載便が割り当てられていること。

⑤搭載完了登録されていないこと。

（Ｃ）強制取消しの場合

入力されたＡＷＢ番号に対して以下のチェックを行う。

①入力されたＡＷＢ番号に係る輸出貨物情報ＤＢが存在すること。

②ＡＷＢまたはＭＡＷＢであること。

③手作業移行済でないこと。

④入力された取消し便名に対して搭載完了登録済でないこと。

⑤入力された取消し便名及び取卸地と同一の便名及び取卸地で搭載便が割り当てられていること。

（Ｄ）貨物識別の変更登録の場合

入力されたＡＷＢ番号に対して以下のチェックを行う。

①入力されたＡＷＢ番号に係る輸出貨物情報ＤＢが存在すること。

②ＡＷＢまたはＭＡＷＢであること。

③手作業移行済でないこと。

④入力された便名に対して搭載完了登録されていないこと。

⑤入力された便名及び取卸地と同一である便名及び取卸地で搭載便が割り当てられていること。

⑥ＦＬＩ業務以外の業務が行われていないこと。

５．処理内容

（１）ＦＬＦ業務の場合

（Ａ）入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合は正常終了とし、処理結果コードに「０００００－００００－００００」を設定の上、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「０００００－００００－００００」以外のコードを設定の上、処理結果通知の出力を行う。（エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。）

（Ｂ）ＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号抽出処理

（ａ）変更、または取消しの場合

前述の輸出貨物情報ＤＢチェックの変更の場合または輸出貨物情報ＤＢチェックの取消しの場合の条件に合致するＡＷＢ番号及び前述のＵＬＤ情報ＤＢチェックの条件に合致するＵＬＤ番号を抽出する。（ＡＷＢ番号は下１桁でソートし出力する。）

（ｂ）強制取消し、または貨物識別の変更登録の場合

前述の輸出貨物情報ＤＢチェックの強制取消しの場合または輸出貨物情報ＤＢチェックの貨物識別の変更登録の場合の条件に合致するＡＷＢ番号を抽出する。（ＡＷＢ番号は下１桁でソートし出力する。）

（Ｃ）出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

（Ｄ）注意喚起メッセージ出力処理

①抽出条件に対する対象データが残存する場合は、その旨を注意喚起メッセージとして出力する。

②登録を行うには再送信が必要である旨を注意喚起メッセージとして出力する。

（２）ＦＬＦ０１業務の場合

（Ａ）入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合は正常終了とし、処理結果コードに「０００００－００００－００００」を設定の上、以降の処理を行う。（詳細については後述の特記事項を参照。）

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「０００００－００００－００００」以外のコードを設定の上、処理結果通知の出力を行う。（エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。）

（Ｂ）輸出便情報ＤＢ処理

（ａ）変更の場合

＜Ａ＞変更前の輸出便情報ＤＢ処理

①入力されたＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号を削除する。

②すべてのＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号が削除された場合は、輸出便情報ＤＢを削除する。

＜Ｂ＞変更後の輸出便情報ＤＢ処理

（ア）入力された変更後の割当て便名に係る輸出便情報ＤＢが存在しない場合

①入力された変更後の割当て便名に対するフライトスケジュール情報から経由地等を得て、輸出便情報ＤＢを新規作成する。

②入力されたＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号を登録する。

（イ）入力された変更後の割当て便名に係る輸出便情報ＤＢが存在する場合

入力されたＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号を登録する。

（ｂ）取消しの場合

入力された取消し便名に対して以下の処理を行う。

①入力されたＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号を削除する。

②すべてのＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号が削除された場合は、輸出便情報ＤＢを削除する。

（Ｃ）輸出貨物情報ＤＢ処理

（ａ）変更の場合

①すでに割当てられている搭載便及び取卸地を、入力された変更後の割当て便名及び取卸地に変更する。

②変更の結果、便割当て個数が輸出貨物情報ＤＢの総個数と一致した場合は、全量便割当て済となる。

（ｂ）取消しの場合

①入力された取消し便名及び取卸地と同一であるすでに割り当てられた搭載便及び取卸地を取り消す。

②取消しの結果、便割当て個数が輸出貨物情報ＤＢの総個数と一致した場合は、全量便割当て済となる。

（ｃ）強制取消しの場合

入力された取消し便名及び取卸地と同一であるすでに割り当てられた搭載便及び取卸地を取り消す。

（ｄ）貨物識別の変更登録の場合

①処理識別に「Ｍ」が入力された場合は、貨物識別としてＭＡＷＢである旨を登録する。

②処理識別に「Ａ」が入力された場合は、貨物識別としてＡＷＢである旨を登録する。

（Ｄ）ＵＬＤ情報ＤＢ処理

（ａ）変更の場合

搭載便名を変更する。

（ｂ）取消しの場合

搭載便名を削除する。

（Ｅ）ＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号抽出処理

本業務にて呼び出された情報を処理するとき、抽出対象となるＡＷＢ番号が輸出貨物情報に残存する、またはＵＬＤ番号が輸出便情報ＤＢに残存する場合は、前述のＦＬＦ業務の場合のＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号抽出処理を再度行う。

（Ｆ）出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

（Ｇ）注意喚起メッセージ出力処理

①抽出条件に対する対象データが残存する場合は、その旨を注意喚起メッセージとして出力する。

②内部処理を実施している旨を注意喚起メッセージとして処理結果通知に出力する。

③登録を行うには再送信が必要である旨を注意喚起メッセージとして出力する。

６．出力情報

（１）ＦＬＦ業務の場合

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 情報名 | 出力条件 | 出力先 |
| 処理結果通知 | なし | 入力者 |
| 搭載便割当情報訂正呼出し結果情報 | なし | 入力者 |

（２）ＦＬＦ０１業務の場合

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 情報名 | 出力条件 | 出力先 |
| 処理結果通知 | なし | 入力者 |
| 搭載便割当情報訂正呼出し結果情報 | 本業務にて呼び出された情報を処理したとき、ＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号抽出処理が行われた後も処理対象データが残存した場合に出力 | 入力者 |
| エラー通知情報（搭載便割当） | 内部処理でエラーが発生した場合に出力 | 入力者 |

７．特記事項

本業務は、入力条件のチェックをし、処理結果コード「０００００－００００－００００」を出力の後、内部処理を行う。

内部処理では、ＡＷＢ及びＵＬＤ１件ごとに輸出便情報ＤＢチェック、輸出貨物情報ＤＢチェック、ＵＬＤ情報ＤＢチェック及びＤＢ処理等の処理を行い、処理終了後、内部処理でこれらのチェックに合致しなかったＡＷＢ番号及びＵＬＤ番号について、その都度エラー通知情報（搭載便割当）を出力する。